



入学式後の少し澄ました私

バンコク日本人学校 校長 **室賀 薫** 氏 (高校23期)

1976年 東京学芸大学卒・東京都公立中学校理科教員となる。

以後東京都の公立中学校8校に勤務

1981年 ニューヨーク補習授業校3年間文部省派遣教員

2003年 クアラルンプール日本人学校 校長として3年間派遣

2016年 バンコク日本人学校 校長として派遣勤務中

「輝く先輩達」のタイトルは照れくさい限りですが、現在勤務している世界一の学校をご紹介できる機会を頂けると聞き、喜んで投稿させていただきました。一体何が世界一かという、まずはその歴史です。世界中にある89校の日本人学校のうち、最初にできたのがバンコク日本人学校です。大正15年盤谷日本尋常小学校として児童16名で開設されました。その後戦争のために約10年間閉校となりましたが、昭和30年に改めて在タイ日本国大使館附属日本語講習会として設置されました。これもまた戦後最初の日本人学校開校となりました。

さらに、本校は児童生徒数でも世界一です。平成26年には3,000名を超えました。今年度は少し減少し2703名ですが、依然世界一です。千人を超える日本人学校は上海、シンガポール、ジャカルタと本校の4校しかありません。右の写真は、4月の入学式後に撮影した教員・事務員189名の集合写真です。実際には、用務員・運転手・警備員を含め250名近くになります。



入学式後の職員集合写真

ところで、なぜバンコクにこんなにたくさんの子供たちがいるのか？バンコク市内を歩いてみれば、東京以上に日本車が多いのではとびっくりします。自動車をはじめとする日本の企業進出の勢いは目を見張ります。さらに日本食の飲食店も軒を連ねています。バンコクに住む在留邦人はおよそ5万人。その結果が、本校の児童生徒数になっています。



2500人の大運動会

海外で生活する日本の義務教育段階の子供たちは約7.7万人。その内約2万人ずつが日本人学校と補習授業校に、それ以外は現地校他という実態です。在校生の皆さんの中にも帰国子女の方がかなりいるのではないのでしょうか。子供時代を海外で生活するというのは苦勞もあるでしょうが、今の時代、貴重な体験としてうらやましいと感じます。できることなら私も帰国子女になりたかった・・・などと思います。

グローバル化が求められる昨今、帰国子女の持つポテンシャルは非常に高いです。高度経済成長時代の日本は、資源のない国の宿命として、加工貿易で外貨を得るという使命を帯びていました。しかし、これからの日本は、海外で平和や環境保全のために多くのことを期待される国として、その存在感を増しています。国益だけでなく、グローバル益を尊重する。そんな国際社会の期待に答える人材を、日本人学校という地の利を生かした環境で育てる使命を強く感じています。そのために、国際バカロレアに基づく教育を実践することはグローバル化への大きな一歩となると考えています。

世界一の規模だけでなく、クオリティーの面でも世界一と胸をはれるような学校づくりを目指しています。